

令和5年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 千代 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、3年生を対象として、「教科（国語、数学、英語）に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、数学、英語）

教科に関する調査（国語、数学、英語）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査

○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

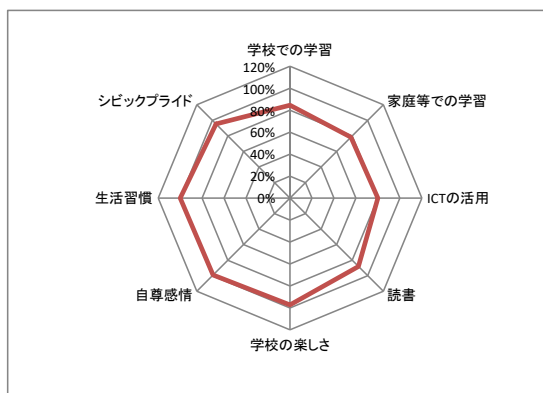
(1) 全国・本市の学力調査（国語、数学、英語）の結果

本年度の結果	国語		数学		英語	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	10.3	69	7.3	49	6.8	40
全国	10.5	70	7.6	51	7.7	45

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	全体的に全国平均を上回っている。多くの生徒が、古語の知識や技能を正しく理解できている。 現代文の一部を直す意図として適切なものを選択することに課題がある。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す。現代語で書かれた「竹取物語」のどこがどのように工夫されているかについて、古典と比較して書く。	
	努力が必要な問題	レポートの下書きの一部について、文の一部を直す意図として適切なものを選択する。	
数学	全体的な傾向や特徴など	全体的に全国平均を下回っている。累積度数の意味や複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができている。自然数の意味や反比例の意味の理解、等式の変形や四分位範囲の意味を理解することに課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する。	
	努力が必要な問題	自然数の意味や反比例の意味の理解、等式の変形や四分位範囲の意味を理解する。	
英語	全体的な傾向や特徴など	全体的に全国平均を下回っている。日常的な話題について、短い文章の概要を捉えることができている。社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書くことに課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	日常的な話題について、短い文章の概要を捉えることができている。	
	努力が必要な問題	社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書くこと。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・学校での授業において、課題解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいる生徒が多い。各教科等で学んだことを生かすことはできるが、自分の考えをまとめる活動が苦手である。 ・学校に行くのが楽しいと、多くの生徒が感じている。 ・毎日同じぐらいの時間に起床、就寝ができている生徒の割合が高く、基本的な生活習慣が身に付いている生徒が多い。 ・読書率が昨年より下がっている。朝読書を通して、読書に親しむ習慣を身に付けさせたい。 ・自分で計画を立てて勉強をしている生徒が少なく、1日当たりの学習時間は全体的に短めである。 ・ICTの活用が昨年より下がっている。様々な活動を通して、ICTを活用していきたい。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- 国語について、授業の中で自分の意見をまとめる活動をより多く取り入れる。
- 数学について、知識・技能は身に付いているため、その知識・技能を活用する能力が身に付くようにしていく。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 適正な起床時間を守り毎日朝食をとっている生徒が多いこと等から、基本的な生活習慣が身に付いていると考えられる。
- 家庭生活習慣が身に付いていない生徒がやや多いため、定期考査前に家庭学習時間を把握し、家庭学習を習慣化させていく。